

鈴木讓 会心の仕掛け

ブリッツェン勢が主導権

自転車

JPT第2戦

自転車ロードレースのJPT第2戦「おきなわロードレースDay 2」は26日、沖繩県金武町の特設周回コース(4

・2時間×25周)105分で行われ、宇都宮ブリッツェンの鈴木讓が優勝した。24日の第1戦は岡篤志が制しており、ブリッツェン勢は開幕2連勝。レースは序盤からブリッツェン勢が主導権を握り、中盤に単独で抜け出した増田成幸が吸収されると、終盤は6人の先頭集団に4人を送り込んで教的優位に立った。最後は溝を持して鈴木讓が飛び出し、小野寺瑠が3位高かった。



優勝した宇都宮ブリッツェンの鈴木讓。沖繩県金武町、小森信道さん撮影

女子のFクラスでは伊藤アサヒ・ピチステンの伊藤杏葉が優勝、2位の吉川美穂とともに2戦連続でワンツーフィニッシュを飾った。JPT第3戦「修善寺ロードレースDay 1」は27日、静岡県伊豆市で行われる。V.P.(4・2時間×105分)①鈴木讓(宇都宮ブリッツェン)2時間35分34秒②藤木一茂(ブリッツェン)③小野寺瑠(宇都宮ブリッツェン)④岡篤志(同)⑤村上(2時間36分9秒)⑥西尾(那須ブラーゼン)⑦馬場(宇都宮ブリッツェン)⑧飯野(同)⑨以上途中棄権⑩伊藤杏葉(ピチステル)59分34秒⑪吉川美穂(同)59分35秒⑫西加那子(TUMARA)1時間35分⑬山本(余任)⑭途中棄権 那須ブラーゼン・西尾勇人(JPTで自身最高の8位)調子も良く、優足できない。だが、フルメ今日のブラーゼンとして勝を自指していたので満ンパーで出場していないは、ベストだったのかな

献身の男、25戦ぶり頂点 鈴木讓

献身的にチームを支え続けてきた男に勝利の女神がほほ笑んだ。宇都宮ブリッツェンの鈴木讓が2016年の第22戦以来、実に25戦ぶりの頂点。開幕戦の岡篤志に続くチーム2連勝に「実感が湧かない。チーム全体がいい仕事をした結果」と控えめに喜びを語った。



前日の約2倍、105分を走る第2戦。スプリント力のある岡と鈴木讓を含まれ逃げ集団をつくり、後方から援護し教的優位な展開に持ち込むプランで挑んだ。残り2周で雨沢毅明がアタック。それを起点に形成された6人の先頭集団にブリッツェンは4人を送り込み、最終周回にベイスを上げた鈴木讓がそのままあっさり逃げ切った。32歳のベテラン。昨季は

(二谷千春)